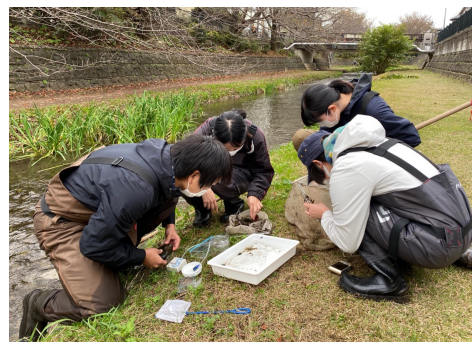




東京学芸大学教職大学院  
教育実践専門職高度化専攻  
教育プロジェクトプログラム  
環境教育サブプログラム

文系・理系の枠を超えて、教科横断的に「環境」について学び、学校や地域の環境を活かした教育活動を展開できる環境教育リーダーを養成します。座学とフィールドワークを組み合わせ、体験的に環境リテラシーを身につけるとともに、課題研究を通じて、学校教育現場における具体的な環境課題と向き合います。専攻共通科目の他に、環境教育サブプログラム独自のプログラム科目として、以下のような授業が開設されています。



野川フィールドワークでの様子  
(環境教育の内容構成開発と実践)

環境教育サブプログラムの主な授業

春学期授業	担当教員	秋学期授業	担当教員
環境教育実践原論	原子栄一郎	環境教育の実践演習II	原子栄一郎・松川誠一・茜谷佳世子
環境教育の実践演習I	吉富友恭・小柳知代・茜谷佳世子	環境教育の内容構成開発と実践	小柳知代・吉富友恭
環境教育の高度研究開発法	松川誠一	環境教育における教材づくり	吉富友恭・小柳知代
環境教育のクロス・カリキュラム開発	松川誠一	環境教育フィールドスタディ	原子栄一郎・茜谷佳世子

【松川誠一(教授)】

子どもの社会認識(特に経済的領域)の発達についての社会化理論に基づく研究とそれに関わる学校教育内容の影響に関わる研究、貧困の世代間継承が学校内で発現するメカニズムに関する研究を行う。課題研究では、経済学・社会学の立場に即したサブティーチャーの役割を担い、環境教育実践の社会システムの側面について教科内容学の観点から専門的な解説・指導を行う。

【吉富友恭(教授)】

水産学をベースとして、河川環境や魚類の生理生態に関する研究、それらの教育普及に向けた展示や環境教育に関する研究に広く携わっている。課題研究では、地域の水環境に関わる課題に対応するための環境教育プログラムの開発と評価、および実践のための連携体制の構築について、河川生物学や博物館学等の観点から専門的な解説・指導を行う。

【小柳知代(准教授)】

景観生態学をベースとした地域の環境学を専門とし、主に里山の生物多様性保全や生態系管理に関わる研究を行っている。里山をフィールドとした環境教育のあり方等についても研究している。課題研究では、地域の環境に関わる具体的な課題(生物多様性保全等)に対応しうる実践的環境教育プログラムの開発やその評価について、景観生態学の立場から専門的な解説・指導を行う。

【原子栄一郎(特命教授)】 環境教育学／人間として生きる環境教育の研究

【茜谷佳世子(特命教授)】 学校経営・美術教育／子どもの権利に関する研究、環境教育の充実と学校づくり

【先輩からのメッセージ】

環境教育という教科は、学校に存在していません。だからこそ、環境教育SPでは教科の枠組みを超え、子どもたちのために、教師としてどのような支援や教材開発をしていけるのか、日々考え続けています。授業では、河川や里山、学校、社会教育施設へと足を運び、人、場所、コトから体感を伴って学び、専門性を高めることができます。そして、授業内外でじっと向き合い、考えを巡らせ、対話できる仲間がたくさんいます。環境教育に関心がある方、教科横断的な学習に興味がある方、実践的な体験活動を通して多面的・多角的な分析をしていきたい方、地域に根ざした教育を子どもたちとともに展開したい方、環境教育SPと一緒に学びましょう。(2023年度 三原 惇宏)